

墨田区食育推進計画における「定性的な評価」の検討について(報告)

1. 墨田区食育推進計画評価検討会議について

墨田区食育推進計画では、目標の達成状況を把握する評価指標として、基本目標を柱とした量的及び質的な項目を設定している。そのうち定性的な評価については、令和5年度に行った「定性的な評価」ワークショップにて、令和6年度～令和8年度にかけて区民等と区で共に「すみだの食育」における「定性的な評価」の独自モデルを作成することとした。

については、独自モデル作成の方向性や実施方法等の検討を行うため、すみだ食育推進会議の専門部会として位置付けた「墨田区食育推進計画評価検討会議」を設置した。

(1)開催概要

【委員】千葉大学 デザイン・リサーチ・インスティテュート 環境デザイン研究室 教授 原 寛道 氏
Shoku-Story 代表 米倉 れい子 氏
すみだ青空市ヤッチャバ 代表 本多 秀行 氏
Japan Youth Platform for Sustainability 事務局アドバイザー 大久保 勝仁 氏
墨田区保健衛生担当次長

開催日	検討事項等
第1回 令和6年8月8日	▼ 定性的な評価について ・ 定性的な評価の考え方 ・ 定性的な評価独自モデルの作成方法等について
第2回 令和6年9月13日	▼ 定性的な評価について ・ 定性的な評価の考え方 ・ 定性的な評価独自モデルの作成方法等について
第3回 令和6年10月18日	▼ 定性的な評価について ・ 定性的な評価の考え方 ・ 定性的な評価独自モデルの作成方法等について
第4回 令和6年12月26日	▼ 定性的な評価についてについて ・ 「定性的な評価」ワークショップの結果について ・ 「定性的な評価」独自モデル(プロトタイプ)「仮説」(案)の検討 ・ 次年度の「定性的な評価」の進め方について

(2)検討結果

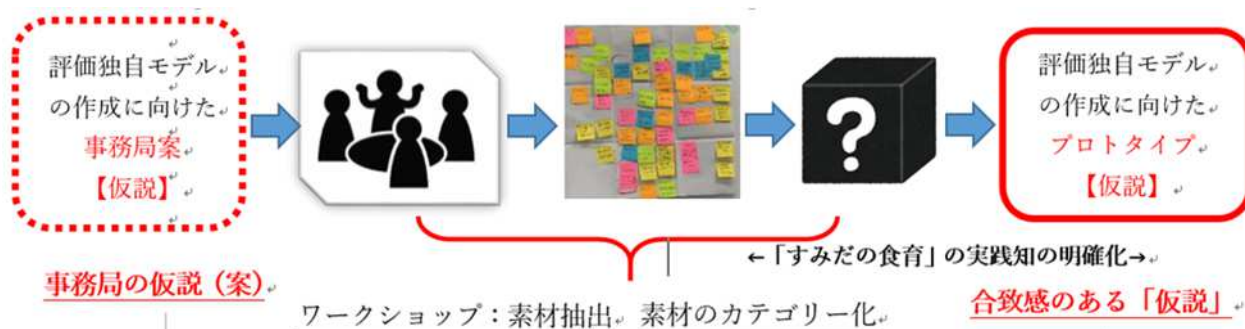
令和6年度「定性的な評価」ワークショップに向けた考え方

「すみだの食育」における「定性的な評価」独自モデルの作成に向けて、ワークショップを用いて素材を抽出し、プロトタイプの「仮説」を作成することとなった。

また、墨田区食育推進計画(令和4年6月策定)において「すみだらしい食育」の明確化にあたっては、以下の点に着目することとしている。

- (ア)「食育」の実践活動で大切にしてきたこと、活動を通して生まれた「行動の変化」について
- (イ)区民等と区の両面から食育がどのように推進されているかについて
- (ウ)定性的な評価の指標と項目(3つの評価指標、6つの評価項目)について
- (エ)「5つの行動のステップによる食育の展開(すみだ方式)」について

プロトタイプの「仮説」を作成までの進め方



「定性的な評価」のワークショップについて

2. 「定性的な評価」のワークショップ(P. 3)を参照

「定性的な評価」の独自モデル(プロトタイプ)の仮説(評価検討会議検討結果)(別紙参照)

基本目標	3つの評価指標		仮説(案)	カテゴリー(実践知)
02	1. 体験に基づく知識や実践等の蓄積を把握する指標	ひと	1人ひとりが夢を持ち、ポジティブな思考力でピンチをチャンスにし、主体性を持って挑戦する。 - つながる・つなげることに手間をかける。すなわち、対等な関係でのコミュニケーションや合意形成を重ねることを惜しまない。 - 想いや夢の実現のために、ビジョン(目的や理念)をみんなで共有し、ブレない志を持って活動する。 - 活動の中で楽しさや感動等、生きがいを感じることであきらめずに継続することができる。	「人として」「価値観」「ビジョンの共有」「想いの共有」 「夢の共有」「を！に！で！」「信念」「理念」「ブレない志」 「キーワード(食)」「対等な姿勢」「信頼関係」「ポジティブ」 「スーパーポジティブ」「ポジティブな思考力」「思いやり」 「手間をかける」「人材育成」「主体性」「継続性」「着実な活動」 「ピンチをチャンスに」「挑戦する力」「実行の自信」「意欲」 「つながる、つなげる」「5つの行動のステップ」「合意形成」 「仲間ができた」「生きがい」「一体感」「感動」「楽しい」
03	2. 次世代の担い手の育成状況を把握する指標	まち	- すみだへの想い(郷土愛)を持ち、それを次世代へつなげている。 - 区民も行政も包容力を持って個を大切に、対等な関係でそれぞれが役割を分担し、活動する。 - 仲間と一緒に多様な手段でまちを育んでいる。 - 未来へ続けていくために、自分たちが取り組んだことや、すみだについて広く伝えていく。 - 人と人だけでなく、地域と地域がつながり交流することでネットワークや活動の幅が広がり未来へ続いていく。 - 平時からのつながりが、災害時に支え合えるつながりになっている。	「しくみづくり(墨田区食育推進行動計画)」「しくみ」「しくみ継承」 「ビジョン共有」「目的の共有」「場づくり」「機会・場所」 「時間が取れない」「振り返りをしっかり」「振り返り」 「協議(5つの基本目標)成立」「みんなの協議」「官民協議」 「庁内協議」「合意形成」「平時(計画の特色:2つの視点)」 「災害時(計画の特色:2つの視点)」「多様性」「アイデア」 「運営委員会」「役割を生む」「つながり」「つながる手段」 「つながるための組織ができた」「土台を作った」「段取り」 「を！に！で！(goodネット食育の扉19号)」 「人材育成」「キーワード(食)」「未来へ続く」「継続」「定期化」 「振り返り」「広く伝える」「すみだらしさの発信」「評価」
04	3. 持続可能な推進体制を把握する指標	しくみ	- 食をキーワードに人と人がつながり活動していく中で、多様な人や多様な団体とつながり、活動の幅を広げる。 - しくみや活動を継承していくためには、活動することが目的ではなく、活動した先に何を実現したいのかを常に意識する。取組は多様な人がつながる手段にする。また、つながるためには、共有できる場や組織をつくる。 - 取組を行ったあとは、必ず振り返りを行い、評価し、記録し、次の活動へ活かす。このサイクルと続ける過程で人が育まれ、活動が継承されている。 - 場(機会・場所)ができ、活動を続ける中で役割が生まれる。継続していく中で役割をしくみ化する。	「災害時(計画の特色:2つの視点)」「地域間交流」「主体性」 「場(3つの場)」「墨田区食育推進計画」「まちを育んだ」 「役割で補い合う」「役割分担」「ビジョン共有」「夢の共有」 「ネットワークの広がり」「多様な分野墨田食育推進行動計画」 「子どもへつなげる」「未来へ続く」「郷土愛」「包容力」 「受容する」「すみだらしさの発信」「多様な手段」「実現する」 「コミュニケーション」「個を大切に」「手間をかける」 「仲間ができた」「信頼関係」

2. 「定性的な評価」のワークショップ

「墨田区食育推進計画評価検討会議」での検討結果を受け、「定性的な評価」独自モデル(プロトタイプ)の「仮説」を作成に向けた素材を抽出するために、ワークショップを開催した。

今年度は、合致感のあるプロトタイプの「仮説」を作成する目的から、墨田区食育推進計画に記載がある実践事例のうち、区民等からは、すみだ食育 good ネットの「特別区全国連携プロジェクト『すみとかプロジェクト』」、区からは健康推進課の「6 月食育イベント」を選択し、2つの実践事例にてワークショップを行った。

(1)開催概要

開催日時及びプログラム

	開催日時・会場	主な内容
第 1 回	日時：10月22日(火) 午前9時半～正午 会場：墨田区役所12階 121会議室	1. 事例発表 「特別区全国連携プロジェクト『すみとかプロジェクト』」 2. ワークショップ(意見共有とカテゴリー化) (1) 取組の成果は何か？ (2) その成果を生んだポイントは何か？ 良かったポイント もう一步だったポイント
第 2 回	日時：11月7日(火) 午前9時半～正午 会場：すみだ保健子育て総合 センター 教室	1. 事例発表 「「6月の食育イベント(食育フェス)」」 2. ワークショップ(意見共有とカテゴリー化) (1) 取組の成果は何か？ (2) その成果を生んだポイントは何か？ 良かったポイント もう一步だったポイント
第 3 回	日時：11月14日(木) 午前9時半～正午 会場：墨田区役所8階 82会議室	1. ワークショップ(カテゴリーの整理) 「墨田区食育推進計画と実践知から生まれた カテゴリーの関連性を考える」

参加者

参加者は、「さつまいも」、「くり」、「かぼちゃ」の3チームに分けて、各ワークを行った。

各回の参加者数は、第1回は20名(うちオブザーバー1名)、第2回は16名、第3回は21名(うちオブザーバー2名)。

各チームの編成及び、各回の出席者の詳細については以下の表のとおり。

「定性的な評価」のワークショップ グループ・役割及び参加者

チーム	氏名(敬称略)	所属	役割	第1回	第2回	第3回
さつまいも	原 寛道	墨田区食育推進計画評価検討会議(座長)	ファシリテーター	○	○	○
	白川 幸子	すみだ食育推進リーダー1期生		○	○	○
	山崎 史子	すみだ食育goodネット		○	○	○
	長澤 伸江	十文字学園女子大学(名誉教授)		○	○	○
	日高 耕佑	栄養教諭		○	×	○
	田中 友子	健康推進課 栄養士	事務局	○	○	○
くり	秋田 昌子	すみだ食育推進会議 委員長	ファシリテーター	○	○	○
	大久保 勝久	すみだ食育goodネット(代表理事)		○	○	○
	鈴木 清子	災害時食支援ネットワーク検討会(委員)		○	○	○
	久我 節子	すみだ食育推進リーダー1期生		○	○	○
	古川 理恵	学務課(管理栄養士)		○	○	○
	染谷 鞠	健康推進課	事務局	×		
かぼちゃ	藤山 綾子	studio-L	ファシリテーター	○	○	○
	今泉 博子	千葉大学工学部環境デザイン研究室		○	○	○
	青島 節子	すみだ食育goodネット		×	×	○
	鈴木 初代	食品衛生推進会議(食品衛生推進委員)		×	×	○
	中井 あゆみ	子ども施設課(管理栄養士)		○	○	○
	平塚 たい子	健康推進課 栄養士	事務局	○	×	○
オブザーバー	米倉 れい子	Shoku-Story(代表)		×	×	○
	本多 秀行	すみだ青空市ヤッチャバ(代表)		×	×	×
	大久保 勝仁	Japan Youth Platform for Sustainability		○	×	○
事務局	須藤 浩司	保健衛生担当次長				
	伊藤 真作	健康推進課長	統括			
	田中 友子	健康推進課 主査	さつまいも			
	染谷 鞠	健康推進課 主事	くり			
	平塚 たい子	健康推進課 栄養士	かぼちゃ			

(2) 検討結果

第1回～第2回「定性的な評価」のワークショップ

すみだらしい食育活動の事例発表を聞いた後、ワード出し及びカテゴリー化を行った。
結果は、以下のとおり。

第1回「定性的な評価」のワークショップ 10/22

1. 各ワークの「カテゴリー」と「ワード」の数

3つのグループから抽出した「カテゴリー」と「ワード」の数は以下のとおりです。

	取組の成果		成果のポイント (良かった点)		成果のポイント (もう一歩だった点)	
	カテゴリー	ワード	カテゴリー	ワード	カテゴリー	ワード
さつまいも	12	52	13	47	10	40
くり	11	27	16	25	4	26
かぼちゃ	10	42	7	45	4	26
合計	33	121	36	117	18	92

*カテゴリー総数

87

*ワード数

330

2班以上共通したカテゴリー

「つながり（人・想い）」、「協働」、「継続（あきらめない）」、「信頼（顔が見える関係づくり）」、「主体性（自分ごと）」

「協働」、「楽しい（楽しさ）」、「信頼しあう」、「コミュニケーション（お互いを知る・想いを重ねる）」、「自分ごと」、「ピンチをチャンス」、「継続（あきらめい）」

もう一歩だった点については、共通したカテゴリーはなかった。

第2回「定性的な評価」のワークショップ 11/7

1. 各ワークの「カテゴリー」と「ワード」の数

3つのグループから抽出した「カテゴリー」と「ワード」の数は以下のとおりです。

	取組の成果		成果のポイント (良かった点)		成果のポイント (もう一歩な点)	
	カテゴリー	ワード	カテゴリー	ワード	カテゴリー	ワード
さつまいも	15	51	13	32	12	33
くり	16	43	12	25	16	32
かぼちゃ	11	42	12	37	6	37
合計	42	136	37	94	34	102

*カテゴリー総数

113

*ワード数

332

2班以上で共通したカテゴリー

「つながるための手段・組織ができた」、「つながり（官民）」、「多様なつながり」、「官民協働」、「理念・目的」、「継続（動き続けた・コツコツ積み上げる）」、「手間をかける」、「合意形成」、「まちを育んだ（まちづくり）」、「振り返りをしっかり」

「目的を明確に（何のための?）」、「楽しく（楽しい）」、「主体性」、「機会・場（を見つける）」

「共有（理念・目的（ビジョン）・指針（コンセプト）」、「庁内協働」、「官民協働（一体感）」

第1回～第2回の全ての班の全てのカテゴリーを共通しているものは重ねるなど、整理したところ、以下の図のとおりになった。

カテゴリー数は、142個であり、これらのカテゴリーは、今回の2つの実践事例から生まれた「すみだの実践知(=暗黙知)」ということになる。



全ての班の第1回及び第2回のカテゴリーを整理した結果の一部

第3回「定性的な評価」のワークショップ

第3回では、さつまいも・くり・かぼちゃの各班に、「すみだの実践知(=暗黙知)」が貼られた状態の同じ模造紙を用意し、第7章「定性的な評価の指標と項目」との関連性について、各班で検討した。その結果をまとめたものは以下の図のとおりである。

第7章「定性的な評価の指標と項目」と「すみだの実践知」(暗黙知)の関連性

<定性的な評価の指標と項目>

定性的な評価は、「3つの評価指標」を設定し、「6つの評価項目」から行います。

基本目標		3つの評価指標	6つの評価項目	カテゴリー（実践知）
ひと まち しくみ	ひと	1. 体験に基づく知識や実践等の蓄積を把握する指標	(1)「食育」または「食」に関する体験を通して、どのような知識、実践等の蓄積があったか。	「人として」「価値観」「ビジョンの共有」「想いの共有」「夢の共有」「を！に！で！」「信念」「理念」「キーワード(食)」「フレない芯」「対等な姿勢」「信頼関係」「スーパーポジティブ」「ポジティブ」「ポジティブな思考力」「思いやり」「手間をかける」「人材育成」「主体性」「ピンチをチャンスに」「つながる、つなげる」「5つの行動のステップ」「承継」「あきらめない」「ピンチをチャンスに」「仲間ができた」「生きがい」「意欲」「一体感」「感動」「楽しい」「実行の自信」「挑戦する力」
	まち	2. 次世代の担い手の育成状況を把握する指標	(2)取組を通じてビジョンや想いの共有をどのように行っているか。 (3)参加者の自主性を促し、行動の変化をもたらすために、どのような仕掛けづくり・しくみづくりを行っているか。	「災害時(計画の特色:2つの視点)」「地域間交流」「主体性」「場(3つの場)(墨田食育推進計画)」「まちを育んだ」「役割で補い合う」「役割分担」「ビジョン共有」「夢の共有」「ネットワークの広がり」「多様な分野(墨田食育推進行動計画)」「こどもへつなげる」「未来へ続く」「郷土愛」「すみだらしさの発信」「包容力」「受容する」「多様な手段」「コミュニケーション」「実現する」「個を大切に」「仲間ができた」「手間をかける」「信頼関係」
	しくみ	3. 持続可能な推進体制を把握する指標	(4)取組を日常的な活動にどう結びつけているか。 (5)取組をより魅力的にするために、どのような仕掛けづくりを行っているか。 (6)より多くの異なる立場の人や団体等との協働をどのように行っているか。	「しくみづくり(墨田食育推進行動計画)」「しくみ」「しくみ継承」「ビジョン共有」「目的の共有」「場づくり」「機会・場所」「時間が取れない」「振り返りをしっかり」「振り返り」「平時(計画の特色:2つの視点)」「災害時(計画の特色:2つの視点)」「みんなの協働」「協働(5つの基本目標)成立」「官民協働」「庁内協働」「合意形成」「多様性」「アイデア」「運営委員会」「つながり」「つながる手段」「つながるための組織ができた」「土台を作った」「段取り」「を！に！で！(goodネット食育の芽19号)」「キーワード「食」」「人材育成」「役割を生む」「未来へ続く」「継続」「定期化」「振り返り」「広く伝える」「すみだらしさの発信」「評価」

3. 次年度以降のスケジュール

令和7年度については、取り上げる実践事例や参加者の幅を広げて実施し、その結果を今年度得た仮説に重ね合わせ、ブラッシュアップを図り、定性的な評価の独自モデルのプロトタイプを作成する。

